

(特活)バングラデシュと手をつなぐ会 会報誌

# Milon

December 2023 No.153



写真:上)福岡市東区の本スク見学会 下右)ともてらす早良開館 2 周年記念

## 私の町で“世界”を知る 秋のイベント報告

ともてらす早良開館 2 周年記念イベント

倶楽部 FUNN / NGO 合同説明会 / NGO 福岡ネットワーク 30 周年記念

カラムディ村だより / 日本バングラデシュ協会寄稿





代表あいさつ

## 「シONDANI」と手をつなぐ会 新たな関係への発展を！



バングラデシュと手をつなぐ会代表 ニノ坂保喜

看護学校が順調に稼働しはじめ、7年目の新生（女性40人、男性10人）も入学しました。看護学生たちを支えるために、世界各地から奨学金支援の手が差し伸べられています。またシONDANI学校も、政府からの支援も得て活動しています。

シONDANI病院は現在、医師はアロムさん1人、メディカルアシスタント1人、看護師4人、ソーシャルワーカー1人が活動しています。看護師のうち2人は、シONDANI看護学校の卒業生ということです。

彼らが今後も継続して活動してくれることを願います。

バングラデシュでは、5年に一度の大統領選挙が近く行われる予定で、政治的な対立が激しくなっているようです。

また、コロナは世界的に治まりつつありますが、蚊が媒介するデング熱が流行しており、死者も出ているということです。

この間も、現地との交流は続いています。

日本国内では、画期的なイベントが行われました。11月に早良区の「ともてらす早良」（早良地域交流センター）開館2周年記念行事（11/3～5）として、バングラデシュに関するイベントが行われたのです。

詳しくは該当の特集記事をご覧ください。今回特に画期的だったのは、バングラデシュの食文化、宗教（イスラム教）に直に触れる試みがあったことでしょう。ともてらすのイベントに引き続いて11/18日には、モスク体験ツアー（マスジド見学会）も行われました。初めてのモスク、初めてのイスラム衣装、初めてのイスラムの祈りに参加して、それぞれどんな思いを持ったことでしょう。多文化との共生、ということをも身をもって感じる事ができたのではないのでしょうか。

私たちの活動も30年を超えて続いています。バングラデシュも発展を続けています。これまでの歴史を踏まえて、私たちはどのような関わりを続けていくのか、理事をはじめ全員で考えているところです。

読者の皆さんとも、ともに考えていきたいものです。

### 目次

【代表あいさつ】「シONDANI」と手をつなぐ会 新たな関係への発展を！

【特集 ともてらす早良開館2周年記念イベント】木村理恵 和田節子  
原麻由子 田中茂生 アマー美穂 仁田野麻美 山田英行

【カラムディ村だより】ラフマン・モクレスール

【イベント報告】・4/28 倶楽部 FUNN での河村理事の講演  
・6/21 NGO 合同説明会 in 西南学院大学  
・11/23NGO 福岡ネットワーク 30周年記念イベント

【日本バングラデシュ協会寄稿】

・手を差し伸べるから「手をつなぐ」関係への道のり（後編）山田英行

【事務局だより】・行事予定・新会員紹介・会計報告など



# 特集 ともてらす早良開館2周年記念イベント

手をつなぐ会は国内での交流活動の拠点として福岡市早良区野芥に事務所を構え4年目となります。同じ早良区で地域交流の拠点「ともてらす早良」の企画提案に応じ今回イベントに、にのさかクリニック・地域生活ケアセンター「小さなたね」と共に参画しました。当会からはカラムディ村での活動、多文化共生（イスラム教徒理解）をテーマにパネル出展や11/4（土）にバングラ DAY の講演会等を、11/18（土）には JR 箱崎近くの福岡モスク アンヌールイスラム文化センターでのモスク体験ツアーを企画しました。

## ▼イベントプログラム内容と参加者数

- 11/1-29 ・ 展示スペースでの活動紹介(にのさかクリニック、小さなたね、手をつなぐ会)
- 11/3 ・ ギターとオカリナ演奏(山の音楽家 Shana)276 名
  - ・ 講演「いのちを受けとめるまちづくり」(ニノ坂保喜)228 名・「在宅ホスピスを語る会」82 名
- 11/4 ・ シンポジウム「手をつなぐ会 35 年の歩み」(ニノ坂保喜、ラフマン・モクレスール)79 名
  - ・ 講演「イスラム教と共に生きるとは」(ラフィクル・イスラム・マルーフ)81 名
  - ・ ハラルフード体験(バングラデシュカレーとチャの体験)30 名
  - ・ 講演「イスラム教との出会い」(アマー美穂)47 名
- 11/5 ・ 講演「共に生きるとは何か」(安田菜津紀)117 名
- 11/18 ・ モスク体験ツアー(アマー美穂)29 名

**11/1水～29水**

1階 展示スペース・市民ギャラリー

9:00-21:00 無料 自由観覧

**活動紹介**

- にのさかクリニック  
～地域のかかりつけ医として～
- バングラデシュと手をつなぐ会  
～地域での国際協力活動～

それぞれの活動を紹介する写真や資料を展示します。



**11/3 金祝** 10:00-10:50 要事前申込 無料 全席自由

2階多目的ホール

**演奏会**

**ギターとオカリナ演奏**

●山の音楽家Shana ●ニノ坂保喜さん

11:00-12:00 要事前申込 無料 全席自由

**講演**

ニノ坂 保喜さん

**「いのちを受けとめるまちづくり」**

13:30-15:00 要事前申込 無料 全席自由

**在宅ホスピスを語る会**

自宅でご家族を看取った方と在宅医療をサポートした医療者が対話します




**11/4 土** 10:00-11:00 2階多目的ホール

要事前申込 無料 全席自由

**シンポジウム**

**バングラデシュと手をつなぐ会 35年の歩み**

■ニノ坂保喜さん ■ラフマン・モクレスールさん



講演

**イスラム教と共に生きるとは**

■ラフィクル・イスラム・マルーフさん

11:15-12:00 2階多目的ホール 要事前申込 無料 全席自由

**文化紹介**

**バングラデシュカレーとチャの体験**

講演 **イスラム教との出会い** ■アマー美穂さん

12:30-14:00 2階大会議室 要事前申込 限定30名 整理券配布 無料

※10月3日(火)10時より、ともてらす早良1階管理事務室で配布開始

**11/5 日** 15:00-16:30

2階多目的ホール

要事前申込 定員300名 入場料500円 全席自由

**講演**

フォトジャーナリスト **安田菜津紀さん**

**共に生きるとは何か**

～難民の声、家族の歴史から考えた多様性～

**安田菜津紀さん Profile**

1987年神奈川県生まれ、認定NPO法人 Dialogue for People(ダイアローグフォーピープル/D4P)フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友達のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたち取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『国境と逢着、見への手紙 ルーツを遡る旅の先』(ヘウレーガ)、他、上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。



入場券 500円 チケット 10月3日(火)10:00より、ともてらす早良1階管理事務室で販売開始

## ともてらす早良開館2周年イベントを終えて



### ともてらす早良 木村理恵

福岡市早良南地域交流センター(愛称:ともてらす早良)は2021年11月6日に地域住民の交流の場として開館しました。私は開館時から当該施設の事業を担当しています。

2023年に二つ目の坂を越える周年事業について協力相手は、二ノ坂保喜さん以外に考えられませんでした。「地域と医療」「地域と国際協力」の二つを主軸に催事を依頼しました。



そこで、特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会(以下、つなぐ会)の活動を紹介していただきました。つなぐ会35年の年表や写真

等を展示していただいたり、二ノ坂代表とラフマンさんを始め、ラフィクル・イスラム・マルーフさんやアマー美穂さんにもお話しいただいたことで大変充実した時間になったことを、心より御礼申し上げます。

つなぐ会に私が出会ったのは20年くらい前ですが、その活動内容はさらに発展していました。従事するメンバーが変わっていましたが、数年ぶりに会えたラフマンさんとは笑顔



で旧交を温めることができました!あらためて、地域でNGO活動に努める皆様のパワーに感心し感激しました。

つなぐ会の魅力の一つは、何十年も続くその活動の中心に、それはそれは強力な(!)女性が複数いらっしゃるのだと思います。お一人お一人が活動を支え、さらに、美味しく調理されるバングラデシュカレーやチャガ、その周りの人々の胃袋を鷲掴みにするため、無理難題があっても乗り越えられる気がするのではないのでしょうか。滋味あふれる食事・楽しいおしゃべり・・・地域のコンパッション(支え合う)コミュニティが、つなぐ会に具現化されている気がしました。

つなぐ会の活動には、たいへん多くの人に関わってこられました。心から皆様に敬意を表します。ともてらす早良開館2周年イベント運営の間、私は皆様から元気をいただきました。バングラデシュは遠いですが、この地域で私たちは問題を知り、解決に向けて共に考え、笑顔があふれる時間を創造し続けたいと思いました。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



ともてらす早良開館2周年イベント

## ともてらす早良開館2周年イベントに参加して



### 手をつなぐ会会員 和田節子

背振の山々に見守られ建つ「ともてらす早良」は、訪れる度に清々しさを感じる場所です。

この日最初のプログラム、山の音楽家 Shana さんによるギターとオカリナの演奏は、美しく優しく・・・会場の雰囲気は和らぎ、心癒される時でした。

続く、二ノ坂医師による『いのちを受けとめるまちづくり』は、在宅医療に長年携わられている医療者の目を通しての講演でした。私たちは、多忙な日々の暮らしの中で脇におきがちな全ての人に訪れる「いのちの終わり」について考える時間でした。その「いのち」を、私自身と家族や友人、医療者、地域の人々と共に受け止め、その時を迎える日の事を考えつつ生きる大切さを強く感じました。



「コンパッション(慈悲深さ)」について語られている時・・・双子の赤ちゃんが同時に泣き出しました。ママは一人を抱っこして、ベビーカーの中のもう一人をあやしながら困った様子

でした。その時隣りにおられた車椅子の方のお母さんが、ベビーカーの赤ちゃんを抱き上げ、「よしよし・・・」と助けの手を差しのべました。赤ちゃんは安心して泣き止み、周りの人々も「ほっ」としました。小さな出来事でしたが、これが「コンパッション」に支えられた社会を作る一歩かなと、明るい気持ちになりました

私は10年前に夫を自宅で看取りました。夫は二ノ坂先生、クリニックのスタッフ、それを囲む訪問看護師、福祉器具会社、薬局、訪問入浴、友人、家族のコンパッション(慈悲深さ)に支えられ、住み慣れた家で旅立ちました。こんな風に手と手を繋いで生きていけるといいですね。

アマー美穂さんの講演「イスラム教との出会い」を聞き、漠然と抱いていたイスラム教への認識が変わりとても有意義でした。



「共に生きるとは何か」安田菜津紀さんの講演は感動と衝撃が心に残り、著書を読み再度安田さんからのメッセージを考察したいと思っています。

今回のイベントを企画して下さいましたすべての方々に心から感謝します。たくさんの方にお世話になりありがとうございました。

## 「支援を必要とする国」から「手をつなぐ国」へ



### 山の音楽家 Shana 原麻由子

佐賀からヨイショとお山を越えて、ともてらす早良の開館2周年イベントに参加させていただきました。ありがとうございました。

まずは1日目。オープニングコンサートで、ニノ坂先生ご



夫妻と一緒にオカリナとギターの音色をご来場の皆さんへお届けしました。2日目のバングラ DAY には、一般のお客様と一

緒に参加。たくさんの学びとおいしいバングラデシュカレーをいただき、参加できて本当に良かったです。

バングラデシュと私は同じ歳。人間の私はもう若いとは言えない年齢になりましたが、バングラデシュは国としてはまだ若い方だと思います。

私たちが宇治松枝さんを通じて『手をつなぐ会』と出会ったのは21年前です。以来ささやかながら関わらせていただけていますが、その間にずいぶん認識が変わりました。そして、『ともてらす』でのラフマンさんやマルーフさんのお話



を聞いて、若い国家バングラデシュがめざましい発展を遂げ、出会った頃の「日本からの支援を必要としている

国」から、今は「日本と手をつなぐ国」になってきているのだと改めて感じました。きっと、これからますます発展していくでしょう。そう願います。

それでも、そこには小さきもの、弱きものがあるはず。国家としては経済発展も大切なことですが、私は、これから先ずっと、看護学校を巣立った学生が看護師となり、小さい命や病める人々、傷ついた人々の救いになり続けるであろうことに、未来への希望を見出しています。バングラデシュと同一年の私の命が終わったその後も、ずっとずっと。

## 講演「イスラム教と共に生きるとは」に参加して

### 田中 茂生



手をつなぐ会事務局の山田さんのお誘いで「ともてらすイベント」二日目に参加させていただきました。イスラム教には以前から興味があり、直接、イスラム教徒の方からお話が聞けることにワクワクして

臨みました。マスコミの影響が大きいですが、日本人の多くがイスラム教に対し良い印象を持っていません。度々報道されるイスラム過激派によるとされるテロ事件報道のためです。

どの宗教でもそうですが、人々に危害を加えてよい教えなどないはずなのに、なぜこのようなことが起きるのか、イスラム教の宗派や国によってコーランの解釈が違うことに



起因するのか、前々から抱いていた疑問を演者であるマルーフさんに直接質問してみました。それによるとコーランは世界に一つだけであり、イスラム教の名を借りたテロや戦争は、宗教の対立ではなく経済戦争であるとのことでした。報道ではイスラム教徒による行為であるとの表現から、あたかも宗教対立かのような洗脳をされてしまっていますが、本質は経済に起因しているのかもしれないと、考えを新たにしています。

今回いただいた視点を持って、マスコミの報道を見るようにしたいと思います。洗脳されている怖さと真実を見る視点の大切さを知る機会を与えていただき、ありがとうございました。

## モスク体験ツアー(マスジド見学会)を終えて

### 福岡マスジド通訳 アマー美穂



2023年11月18日(土)に29人をお迎えして、福岡市東区の箱崎駅すぐそばにある“宗教法人福岡マスジド アンヌールイスラミックセンター”

で見学会を開催する事ができました。

10時30分開場で、予定の14時を過ぎてもまだ話し足りず、時間を少し延長して無事に終わる事ができました。半日がかりのプロジェクト。参加者の中にはバングラデシュと手をつなぐ会の顔馴染みの御三方がいてくださり、緊張しながらも心強く1日をスタートする事ができました。



1日の流れとしては、まずは簡単なお挨拶とクルアーン(コーラン)の読誦から始まり、第一部として、マスジド内を見学、そして女性の礼拝着、民族衣装、ヒジャーブの着用体験。

その際にボランティアでモデルさんを募ったのですが、最初は皆さんシャイな感じだったので、迷わず事務局の末岡さんと野田さんを引っ張り出しました。すると少しずつ盛り上がってきて、沢山の女性が衣装の試着を楽しまれ、皆さん



の笑顔に私は喜びを感じました。

第二部はイスラームについてのプレゼンと質疑応答。日本の皆さんに偏見という眼鏡を取っていただき、これから先「イスラーム」というワードの入ったニュースに出会った時、今回の福岡マスジドのプレゼンテーションからの情報と照らし合わせていただければと思います。「これはイスラム教の教えについてなのか?それとも世界中に19億いるイスラム教徒の





うちの一イスラム教徒がやった事のニュースなのか？」そして、「その行いをした者はイスラム教徒だが、そのイスラム教を取り払って人間のした事とみなした場合、その行いをした者は、他の宗教の人たちの中にもいるのではないか？ いやそんな分類は取り払って、人間がしてかした事と見る事はできないのか？」と、考えていただく際の「ものさし」や「ふるい」になれると良いなあと、心から願うばかりです。



そして最後の第3部は、お楽しみのハラール食材を使ったランチ。今回は初めての試みとして、参加者皆さんをグループに分けて、イスラ

ム教徒とランチを食べていただき、お喋りも食事も楽しんで頂くというスタイルを試みました。ここではみなさん少人数ということもあって気軽にお喋りして頂き、ランチも大好評だったようです。



コロナ明け初めての半日がかりの見学会は、忘れられない時間になりました。1日を通して温かく、楽しい見学会だったように思います。

最後に、唯一なる神アッラーに感謝しアッラーを讃えます。そしてバングラデシュと手をつなぐ会にも心から感謝の意



を表して、マスジド見学会の報告とさせていただきます。貴重な機会をありがとうございました。

## 目からウロコ ～モスク体験ツアーに参加して～ アートマネジメントセンター福岡 仁田野 麻美

「モスク体験ツアー」(しかもハラール食事付!)という、魅惑的な文言にひかれて申し込みをしたものの、私はこれまで、海外・国際という言葉から連想するものは海外旅行だけ。「イスラム文化」はもちろん、「国際交流」という言葉にさえ何の思い入れもないのに、このご参加しても良いのだろうか、少し恐縮しながらも楽しみに当日を迎えました。



JR 箱崎駅からすぐ、高架沿いにそびえる大きな丸いドーム状の屋根に、まずはびっくり。内部は礼拝を大切に思う皆さんの手で清潔に保たれ、きらびやかではないも

のの厳かな雰囲気です。施設見学、イスラム教についての説明、礼拝への立合い、ハラールランチをいただきながらの交流会という内容でした。



全体を通して大満足の体験でした。特に交流会では、初対面ながらも女性ばかり6名のグループで話も盛り上がり、ムスリムの方から日本ででの生活がどのようなものかを聞くことができました。



そして何より、イスラム教に対し、自分が勝手な思い込みをしていることに気づくことができました。

私はこれまで、イスラム教に対し、食や男女に関する規律が厳しいというイメージをもっていました。また、イスラム過激派という言葉やそれらの報道から「テロ・過激思想」という印象もありました。今回参加したことで、それらのイメージの背景や実情を知り、これまでと全く違う認識を得ることができました。

「女性が肌を隠している」のは、女性を大切なものとして扱い、守るためのものなんですね。私は、女性を中に閉じ込めようとするような、男女差別が横行した文化なのかと思っていました。キリスト教で描かれる“マリア様”もヴェールをかぶっているのに、なぜイスラム教徒のそれは同様のものだと思わなかったのでしょうか。



世界に20億人ともいわれるイスラム教徒全員がテロ行為をおこすなどということはありません。



イスラム教徒の0.001%程度の過激派の行為が、なぜイスラム教徒そのものの姿かのように思っていたのでしょうか。今回の体験ツアーへの参加で、私自身の「物事を見る目」を変え、「物事を見ようとする姿勢」を正さなければならないということに気づかされました。本当にありがとうございました。

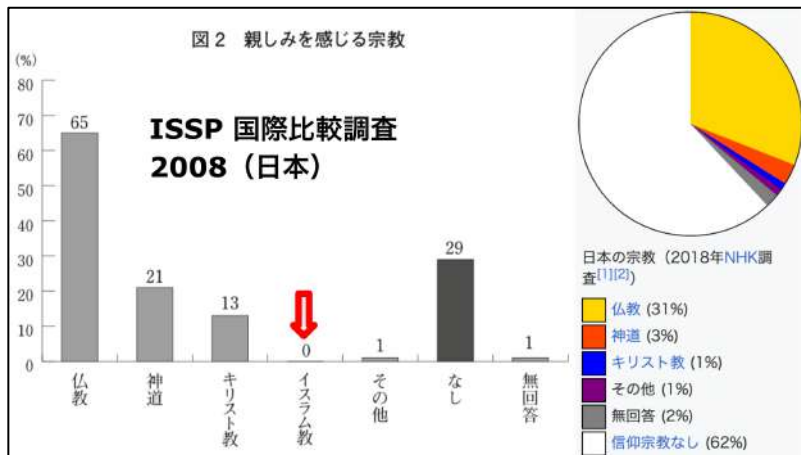
## ムスリム（イスラム教徒）って、どんな人？



### 事務局 山田英行

多文化共生には自分だけのモノサシ（価値観）で相手を測らぬように努め、『自分たちが正しい』という思い込みを捨て相手の立場を思いやりながら歩み寄ることが大切です。人口の85%ほどがイスラム教徒のバングラデシュにとって最も重要なモノサシは、

イスラムの教えです。それを理解することが共生への道につながるのではと思います。バングラ DAY 及びモスク体験ツアー（九州地域 NGO 活動助成金事業「イスラム教徒理解向上プログラム」）を企画しました。



参加者 236 名中、78 名からアンケートを頂きましたので、共有させていただきます。

### ■感想や学んだこと

・自分の中のバングラデシュが昔のままでアップデートされていないことに気づいた。これからどんな支援が必要なのか、自分がどう関わっていけるかを考えるうえでも今後も学んでいきたい。

・ラマダンの断食の意味が食事を取れない貧しい人々のことを思い、その後に寄付するためにあることを初めて知った。

・ラフマンさんがおっしゃた「MySelf」という考え方はとても重要と思います。国と国、人と人との関係づくりの基本とすべきだと思うからです。尊厳を害しては自立への道が遠くなります。

・偏った考え方を持っている自分が恥ずかしい。

・イスラム教への理解が深まり、私も断食しようと思った。女性を尊重する教えを知ることができたのは良かった。

・キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の根本が一緒（同じ神様）だということを初めて知りました。それなのになぜ戦争するのか、宗教に根ざしていると思っていたが違うのか。

・自分が何も信仰してなかったため、あまり身近に一神教を感じていなかった。ただ、今の日本で外国の方が多くなる中で一緒に暮らしていくには、「よく知り合えないもの」として、そのままではいけないと思った。

・メディアの情報が事実とは限らないと気づきました。

・ムスリムの人たちが真の教理に基づいて行動すれば平和な社会になるのにと感じた。

・イスラム教について分かっているつもりでいたが自分の認識とは違った部分もあり勉強になった。今後、彼らと話したりするときに彼らの考え方なども聞いてみたい。

・ムスリムの方々が日本ででの生活で生きづらさを感じていることを知った。

・世界で起こる戦争は一神教の対立だと思っています。原理主義者だけの戦争かも知れませんが宗教が道具に使われているのは止められないかな。それぞれの正義をいかに尊重し合うかが課題です。

・国籍だけでなく、多方面で「偏見」があると思うけど一人ひとりの視野を広げ、思いやることを気かければ世界は変わると思う。

・移民や外国人労働者に対して理解を深める必要があると、強く思います。

・ムスリムに対してのイメージが変わりました。知識の習得方法について問題があることを学んだ。自分が偏見のかたまりだと思った。

・漠然とイスラム教、ムスリムを捉えていたがもっと深く、正しく知る必要があると思った。何事においても幅広く多面的に見て生きなければいけないのでは。移民を単

なる労働者としてではなく、友人、隣人として受け入れたい。

・自分が無知ということが一番の感想です。知らないことで不安となり、みんなの意見に同調することで安心することを打ち破る必要がある。

・普段、ムスリムと気軽に話したり、聞いたりすることがなかったため、とても貴重な機会となりました。もっと身近にこのような機会があればいいなと感じました。

・できるだけ偏見をなくしたいと思っていたが、自分が知りたい情報しか得てこなかったことが分かった。

## ◆カラムディ村だより



### ラフマン・モクレスール 手をつなぐ会副代表

■シオンダニスクールが新たな場所に建設計画  
ムジブナガルという町はバングラデシュ人ならだれでも知っていると思います。メヘルプール県庁所在地から約10km、カラムディ村から40km離れた場所にあります。インド国境からわずか数メートルです。戦争が始まった時にパキスタン兵は1971年3月26日の夜にバングラデシュ・アワミリーグ代表のシェイク・ムジブル・ラフマンを逮捕し、パキスタンに連れ去りました。アワミリーグの主な政治家たちは1971年4月17日にこの場所に集まり、バングラデシュ暫定政府を作り、解放戦争を主導しました。

当時、この地区は、ボイドナトラ(Baidyanathtala)と呼ばれていました。その後、ムジブナガルに地名を変更し、メモリアルを建てました。現在、全国から多くの人々がメモリアルを訪れています。メヘルプール県民は数十年前からこの地区に大学建設を要望してきました。



リアルを建てました。現在、全国から多くの人々がメモリアルを訪れています。メヘルプール県民は数十年前からこの地区に大学建設を要望してきました。

やっと今年その要望がかなえられ、ムジブナガル農業大学 Mujibnagar University of Agriculture Science が建設されることになりました。ショングニス学校は現在、ガンニ地区にあります。これとは別に、この農業大学の近くに新たにショングニス学校を建設することを計画しています。

### ■ショングニス学校の成績

ジョシヨル教育委員会主催で実施された HSC(Higher Secondary Certificate 高校卒業試験)の結果が 11 月 26 日に発表されました。ジョシヨル地区の 109,634 人の学生が試験を受け、70%は合格しましたが、これまでの成績よりかなり下がりました。

メヘルプール県内では 3,768 人が受験し、67.4%が合格。ショングニス学校では 84 人が受験し、82 人合格、そのうち 14 人が全ての試験科目で 80 点以上でした。メヘルプール県内で最高の成績ですが昨年と比べるとレベルダウンしています。女子学生 2 名が物理の試験で不合格となったので、来年度は特に理系科目の成績がもっと上がるように教育指導を強化する方針です。



### ■「食の安全」普及啓発会議

11 月 27 日にショングニ看護学校のオオキ・ニノサカホールにて食品局による「食の安全」普及啓発会議がおこなわれました。メヘルプール県の初等教育担当官、メヘルプール地区食品安全担当官のほか、この地区の教育で要職につく 8 名と小学校校長 40 名が参加しました。



現在、国立小中学校と一部の私立学校には給食制度がありますが、他の多くの学校には給食制度がないため、授業

時間を短くし、下校を早くしています。また朝食抜きで登校している生徒もいます。

給食制度を拡大すること以外に、教育委員会や健康保健省は他の問題にも取り組むことが必要だと考え、今回、公立小学校の校長 40 名を招集したのです。



校長らに「健康増進のための食の安全」研修を実施し、食品の衛生管理や食品の賞味期限、ソフトドリンク・ファーストフード・揚げ物の過剰摂取の影響について講義しました。参加した校長らが中心となって自校の学生や保護者らに「食の安全」に関する知識を伝え、地域住民がみずから健康を守れるよう普及啓発活動をおこなうことを期待しています。

ショングニス学校の関係者たちも積極的に、この会議に参加しました。

ショングニス学校の全生徒は昼食には全員が弁当を持参していますが、その昼食の栄養バランス及び食前食後の衛生管理体制が今後の課題として挙げられています。

### ◆イベント報告

#### ・4/28 倶楽部 FUNN での河村理事の講演



倶楽部 FUNN とは、国際協力の現場で活躍する人やいろいろな国の人からお話が聞ける NGO 福岡ネットワーク主催のイベントです。

河村理事は今年の 2 月に手をつなぐ会の現地支援先であるカラムディ村や病院、看護学校を訪問した際のお話をしました。

#### ・6/21 NGO 合同説明会 in 西南学院大学



西南学院大学ボランティアセンターと NGO 福岡ネットワーク (FUNN) 共催の合同説明会があり、事務局三人が参加しました。



直前まで授業が行われていた大学の教室での開催だったこともあり、80名ほどの学生が集まりました。

合同説明会のはじめに、NPO 法人 ISAPH の山本さんより「国際協力と福岡の NGO について」の講演があり、続いて参加した7団体から会の活動や学生のボランティア参加の仕方について発表した後、ブースに分かれて詳しい説明を聞くという流れでした。



当会には、4名の学生の方が来て熱心に話を聞いてくれ、連絡先も交換することが出来ました。皆さんには、これ

からもイベントの情報や活動の様子等ををお伝えしていこうと思っています。

・11/23NGO 福岡ネットワーク 30周年記念イベント  
福岡市 NPO・ボランティア交流センター あすみんにて、当イベントが行われました。



NGO 福岡ネットワーク (FUNN) に加盟する NGO9 団体の出展があり、各ブースでの団体紹介や、支援を行っている国々の民芸品やコーヒー豆・紅茶等の販売があり、当会もブース出展で参加しました。



午前中のステージでは FUNN の代表でもある二ノ坂先生の講演 (当会の活動紹介をしました) やオカリナ演奏で盛り上がっていました。



午後は、30周年記念シンポジウムがあり、パネルディスカッション形式で、30年の FUNN の歩みや、今後求められるネットワーク NGO の役割などの話がありました。NGO 関係者だけでなく一般の人達の参加もあり、また若い人たちの姿もみられ、これからの NGO の在り方等を考える貴重な時間になったのではと感じました。



## ◆日本バングラデシュ協会寄稿(後編)

日本バングラデシュ協会 メール・マガジン 113号

(2023年3月号)掲載

「手を差し伸べる」から「手をつなぐ」関係への道のり～巣立ちにむけて～



事務局 山田英行

### 1. バングラデシュの変容

バングラデシュはかつて世界の最貧国と呼ばれていましたが、2000年代から現在に至るまで繊維業などを中心に平均で約6%の高い経済成長率を維持しています。

他方、日本では経済は低迷し、平均賃金は横ばいで失われた30年と言われてます。

30年前一人当たりのGDPでは、日本との格差が100倍ほどでしたが、その差は大きく縮まりました。

乳幼児死亡者数は1/5ほどに激減するとともに、国民の平均寿命は74.3歳(2019年)と大きく伸びました。

死亡要因は感染症が1/3ほどに減り、逆に生活習慣病が3/4を占めるようになりました。

学校教育の充実により識字率が2022年には76.7%になり、経済成長を支える原動力となっています。

### 2. ショングニの発展と残された課題

これまで手をつなぐ会の支援で、ジャパニ小学校、母子保健センター(のちにショングニ病院へと規模拡大)が作られました。



また日本の「夢みるこども基金」\*1の支援を受けてショングニ学校がカラムディ村から少し離れたガンニ市という地方都市に建設されました。ショングニ学校(小中高等一貫

学校、現在1638名在籍)は、いわゆるモデル校と呼ぶにふさわしい学校に成長し、学業、スポーツ、文化活動などで、地域ではもちろん県内でも有数の学校となっています。

\*1:『夢みるこども基金』福岡市を中心に活動する慈善団体。作文/絵コンクール、植樹、バングラデシュの学校支援など、こどもたちの夢をかなえることを目的に様々な活動を展開。理事にアグネス・チャンがいる。

そのショングニ学校が隣接する敷地に、2012年に手をつなぐ会の一大事業として「看護学校建設プロジェクト」に着手しました。日本との比較では看護師数は日本の1/50と大きな格差がありました。この圧倒的に不足している看護師を養成することが喫緊の課題だと考えたのです。



看護学校建設費は当初の予想を大きく上回り1億円近く、巨額に膨れ上がりました。その資金の全ては当会の支援者からの寄付でまかなわれ、授業で使う機材や教材・実習備品等は日本からの助成金で購入されました。ショングニ看護学校(3学年制・定員50名/学年)は2017年に第1期生を迎え、看護師として、社会に巣立つようになりました。

イスラム教の国では女性の社会進出は難しいのですが、看護師は女性の自立のための数少ない職業でもあり、この看護学校の果たす役割は大きいと自負しています。



またブリヂストンによる「ちょボラ募金」\*2による継続的支援を受け、地域住民、特に若者のためのインフォメーションセンター(図書室・インターネット環境整備・学習室)が建設され、都会との教育格差解消に貢献しています。

\*2:『ちょボラ募金』(株)ブリヂストンで2014年に始めた、従業員や従業員の身近な人たちの社会活動を応援していくという目的の社会貢献を推進する仕組み。『ちょボラ募金』は、従業員から支援金を募り、集まったお金を選定した社会活動団体に寄付している。

このように教育分野では、ショングニは目覚ましい発展を遂げている反面、医療・保健分野では課題は残されています。僻村では医師の定着は困難で、そのことによる地域住民からの信頼の低下が危惧されています。

また設備、機材面では救急車廃車、レントゲン機器の老朽化などにより、十分な検査や治療が提供しづらくなっていきます。

それらの要因にともない、患者数の減少がみられ、病院は赤字経営が常態化しています。

### 3. 当会の課題

「バングラデシュに小学校をつくる会」が発足し、35年が過ぎようとしています。

当会の会員や支援者の高齢化が進むと同時に若い世代の新規加入がほとんどみられなくなり、会員数は減少傾向にあります。

その結果、当初のような活気あふれる活動はあまり見られなくなり、運営において、慢性的なボランティア不足に陥っています。

それと同時に寄付なども減少し、財源の安定確保も難しくなり、バングラデシュへの資金援助が先細っています。

### 4. これからの支援のあり方

当会とショングニが抱えるこれらの課題を解決しようと、ここ数年、話し合いの場を当会会員やショングニ側と設けて

きました。特に昨年は20数回にも及ぶオンライン会議や現地ヒアリング調査を行い、CommunityBasedHospital



(地域に根付いた病院)のあり方や周辺住民の保健増進について、現場レベルで熟議しました。

その対話の結果、「コミュニティヘルスプロモーション&エデュ

ケーションプログラム」を展開する方向で合意しました。当会の現状とショングニの成長を鑑み、長期継続するには予算の面でも意識の面でもショングニが主体性を持ち、牽引役となるプログラムであるべきではと当会は考えました。また新しい試みとして、今年から当会理事らとショングニの幹部らがお互いが抱える課題を共有し、対等な立場で話し合う場を定期的に持つことにしています。

カラムディム村での教育・保健医療・生活向上のために、これまで30年以上取り組み、村やその周辺地域の発展に寄与してきたことを誇りに思う反面、この長きによる支援が、彼らの自立心をひ弱にさせたのではとの考えも去来します。

とどまり続けることで現地の自立を妨げることがないように、私達バングラデシュと手をつなぐ会も、現地と新たな関係性を築く時期に来ているのかもしれない。

【読者感想】このような活動を長年続けられてきた「バングラデシュと手をつなぐ会」の「手をつなぐ」というコンセプトに共感します。未だに学生のなかには、日本がアジア随一の先進国であると信じて疑わず、バングラデシュを最貧国と認識して「援助」でしか両国の関係をイメージできない者もいてがっかりすることも多いのですが、そうした認識を一掃するには、こうした「現場」や直接的な関わりが大きな役割を果たすと思います。活動を続けるだけでもたいへんなご苦労でしょうが、バングラデシュとのこのような関わりについてもどんどん発信していただければと思います。



## ◆事務局だより

### ■助成金・寄贈プログラム

採択: プロジェクター (NPO 法人イーパーツ)

採択: 多文化共生のためのイスラム教徒理解向上プログラム (九州地域 NGO 活動助成金事業)

### ■2023年度下半期行事予定

・12/17(日) オカリナチャリティーコンサート  
12:30 開場 13:00 開演

場所:アバンセホール(佐賀市天神3-2-11)

料金:1,000円(全席自由)

1部 オカリナ&ギターコンサート「音楽で巡る世界の旅」

Shanaと佐賀のオカリナグループ

2部 講演「共に生きることを考える」

手をつなぐ会代表 ニノ坂保喜

・1/21(日) 南福寺バザー出展

・1/28(日) バングラデシュ料理教室(講師:ヌレンさん)

10:00~15:00(9:30開場)

場所:福岡市健康づくりサポートセンターあいれふ、

(福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号)

## ■新会員紹介

[正会員]後藤香織

[賛助会員]なし

## 会計報告

### 事務局 末岡智子

【2023年度上半期の主な収支(4~10月)】

・正会員会費 240,000円

・賛助会員会費 259,400円

・受取寄付金 2,257,484円

・受取助成金 100,000円

・人件費 1,090,208円

・家賃・光熱費 308,000円

・支払寄付金(シヨングニ支援金送金)

インフォメーションセンター 300,000円

シヨングニ病院 1,000,001円

◆募金のご協力ありがとうございました。

(2023年6月~2023年11月)敬称略/順不同

### 【ミロン募金】

秋吉美千代(日本セラピューテック協会)、有松壽美子、有吉準子、飯野孝子、碓道子、石田陽子、市田敬子、伊藤良子、稲永みき子、平山正明(ウエルフェアネット)、大木ひろみ、大澤友二、小川信、押野圭子、帯田輝幸、鐘ヶ江寿美子、鐘ヶ江康子、金子貴美代、上瀧口麻里子、蒲地純、川内恵美子、神戸太郎、吉瀬恭子、草場耕二、久保田千代美、國光登志子、倉光剛郎、倉光東昭、古賀カツ子、五反田千代、権藤説子、栄小知子、貞刈賜代、貞末一廣、佐藤純子、柴田須磨子、重橋亨、白石信子、末岡智子、末次奈保子、鈴木崇世、瀬尾康子、関根悠紀子、副島タカ、高嶋裕二、竹末龍也、田島寛、多々良元、多々野須美子、立場美枝子、谷口純子、田村賢二、塚原晃子、道本実保、特定非営利活動法人たんがく、中野朝恵、長野洋子、中村サワ子、ニノ坂富士子、野田景子、濱田絹子、原口勝、原紀子、廣田恵津子、福岡比佐子、訪

問ボランティアナースの会キャンパス湘南、細野容子、牧瀬千里、松添仁、松田純子、三坂真紀子、溝上明子、牟田壽、元田晶子、安浪加余子、山田榮香、1)けやき、ラフマンモクレスール、訪問看護リハビリステーションはる、和田節子

### 【募金】

西川博美、瀬角南、中牟田芳子、真鍋忠、大脇為常、南原かつ子、済生会福岡総合病院 阿比留典子、中園久美子、馬場キミ子、杉本潔、白倉容子、塚原晃子、吉松慶子、山崎麻子、陶山紀美子、大内光、石塚月子、安田ふさ代、杉山良輔、曾場尾雅宏、池田愛美、内兼久和子、田中美穂、佐藤修二、山下久代、渋谷枝美、竹末龍也、藤田瞳、出水明、倉光陽大、尹戸真司、鬼東次男、河上浩康、久保浦英範、吉岡正和・夏予子、松隈和美、越智吉郎、江崎好枝、宮崎久美子、今泉幸男・ゆみ子、有松壽美子、宮辰建設(株)あゆみの会、あい薬局 宮田秀子、有馬紀美子、河内英一、川原由美・惇司、小崎隆子、ひらまつクリニック在宅医療部一同、谷山玲子、山田和男、(株)ウエルフェアネット、中尾トミ子、香原弘明、木村理恵

【旅費カンパ】無し

【その他募金】無し

### 【募金箱設置協力】

にのさかクリニック、シーベスト野芥店、さわらスイミング、かも川薬局野芥店、はびね福岡野芥、なかよし眼科、高砂園、グリーンビレッジテニスクラブ、春風薬局、宮浦事務所、大木整形・リハビリ医院、岡村ツタエ、グループホームあおい、なごみの家、白熊園、赤坂りんご、佐田裕一、安田晃一、はびねスタッフ石橋 NS、大賀薬局太宰府病院前店、山の音楽家 Shana、藤川博史

### 【募金に添えられたメッセージ】

✿2019年西南チャペルでの「手をつなぐ会30周年記念イベント」にて、ニノ坂先生のお話を聞き想いを寄せていました。先日、西日本新聞の記事で先生の写真をお見かけして、少しでもバングラデシュの子ども達の為に役立ててもらいたいと思い、寄付することにいたしました。

たくさんのご協力、本当にありがとうございます。  
心から感謝申し上げます。



Bangladesh と手をつなぐ会では、現地NGO「シONDANI・シONSTA」とともに、 Bangladesh 西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域で、1989年から《教育》《保健医療》《生活向上》の分野で支援活動を行っています。

## 事業内容

### ● 現地（ Bangladesh ）での活動

- ① 教育（ジャパニ小学校、奨学金制度、仔牛の奨学金プロジェクト、シONDANIスクール）
- ② 保健医療（シONDANI病院、看護学校、健康教室）
- ③ 生活向上（子牛貸出制度、インフォメーションセンター）



### ● 国内での活動

- ① 総会（毎年5月）、理事会（毎月1回）による活動方針の決定や運営
- ② 会報誌『ミロン』を年2回、6月・12月に発行
- ③ 現地訪問の実施、報告会実施、報告書作成
- ④ Bangladesh 料理教室、チャリティバザー、チャリティコンサートなどの開催
- ⑤ 出張講座や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介

特定非営利活動法人 Bangladesh と手をつなぐ会

〒814-0171 福岡市早良区野芥 6-46-7

共同事務所「野芥フリーハウス」内

☎092-407-7701 Fax092-407-7702

email: [info@tewotunagukai.com](mailto:info@tewotunagukai.com)

<https://tewotunagukai.com>

<https://www.facebook.com/tewotunagukai>



手をつなぐ会の活動全体の支援

ゆうちょ銀行口座 01720-2-10442

特定非営利活動法人

Bangladesh と手をつなぐ会

ミロン募金（ Bangladesh 現地支援）

毎月の定額振替

お問い合わせください

## 編集後記

## Milon

「いつもの文字と違う」とお気づきでしたか。多くの人に読みやすいよう工夫された書体「ユニバーサルデザイン（UD）フォント」は、目の不自由な人も含め、より多くの人を読みやすく、誤読されにくいように考慮した書体で新聞でも使われています。

今まで校正を務められた河村理事が交代されることになりました。長い間、ご苦労さまでした。

会 報 名 ミロン153号 2023年12月発行  
 ※「ミロン」は、ひとつになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。  
 発行責任者 ニノ坂 保喜  
 （ Bangladesh と手をつなぐ会 代表）  
 表紙・監修 小畑 麻乙  
 編集実務担当 山田 英行  
 校正担当 野田 景子・末岡 智子